

 藥局通信 第 112 号

大阪母子医療センター

新規試用または採用、採用区分が変更になった医薬品一覧

新規試用医薬品	新規採用医薬品	新規患者限定医薬品
①フィアスプ注 100 単位/mL ②フィアスプ注フレックスタッチ ③ナウゼリン坐剤 30	①エブリスディドライシロップ 60mg ②セレコキシブ錠 100mg「ファイザー」 ③オンドанセトロン注 4mg シリンジ 「マルイシ」 【在宅処方専用医薬品】 ①TSCD ウェハー（60 枚入り） ×2 個/セット ②テルモシリンジ 1mL ③テルモ注射針（27G）	①ベネクレクスタ錠 50mg・10mg ②アジョビ皮下注 225mg シリンジ ③献血ヴェノグロブリン IH10%静注 20g/200mL ④生理食塩液バッグ「フソー」 ⑤サージセル・アブソーバブル・ヘモ スタット ニューユニット 15.2cm×22.9cm 【通常採用→患者限定薬に変更】 ①レナジェル錠 250 mg
新規院外専用医薬品	採用中止品目	
①スルピリド錠 50mg「アメル」	①キョウニン水「マルイシ」 ②ドグマチール錠 50mg ③レグパラ錠 25mg	

販売中止などにより変更した医薬品

No	院内採用削除薬品名	理由	代替薬名
1	プロチゾラム錠 0.25mg「CH」	供給制限のため	プロチゾラム錠 0.25mg「EMEC」

採用薬品の処方開始は、原則として**2022年5月10日(火)**からになります。

ただし、採用中止薬、切り替え等は院内在庫薬がなくなり次第実施となりますので開始日が異なる場合があります。

新規試用医薬品

① フィアスプ注 100 単位/mL 処方箋医薬品 / 劇薬

② フィアスプ注フレックスタッチ 処方箋医薬品 / 劇薬

(ノボ ノルディスク ファーマ株式会社) 超速効型インスリンアナログ注射液

一般名：インスリン アスパルト

採用理由

院内採用かつ類似薬のノボラピッド注、ヒューマログ注に比べ、効果発現が 5～6 分早く、食直前の投与でも血糖上昇を抑制できることから、糖尿病妊婦の使用に大変有効であるため。本剤は小児への投与可能である。

フレックスタッチを使用できない患者を考慮し、バイアル製剤も採用する。

効能効果

インスリン療法が適応となる糖尿病

用法用量

通常、成人では、初期は 1 回 2～20 単位を毎食事開始時に皮下投与するが、必要な場合は食事開始後の投与とすることもできる。また、持続型インスリン製剤と併用することがある。投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常 1 日 4～100 単位である。

通常、小児では、毎食事開始時に皮下投与するが、必要な場合は食事開始後の投与とすることもできる。また、持続型インスリン製剤と併用することがある。投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常 1 日 0.5～1.5 単位/kg である。必要に応じポータブルインスリン用輸液ポンプを用いて投与する。また、必要に応じ静脈内注射を行う。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：①309 円/mL ②1,826 円/キット

③ **ナウゼリン坐剤 30** 処方箋医薬品
(協和キリン株式会社) 消化管運動改善剤
一般名：ナウゼリン

採用理由

体重 10kg 以上の患児の場合、院内採用のナウゼリン坐剤 60 を 1/2 や 1/3 に切る必要がある。また誤ってナウゼリン坐剤 60 を 1 個投薬し、過量投与リスクがあるため。

効能効果

小児：下記疾患および薬剤投与時の消化器症状（悪心、嘔吐、食欲不振、腹部膨満、腹痛）

○周期性嘔吐症、乳幼児下痢症、上気道感染症

○抗悪性腫瘍剤投与時

用法用量

小児：3 才未満の場合、通常ドンペリドンとして 1 回 10mg を 1 日 2～3 回直腸内に投与する。3 才以上の場合、通常ドンペリドンとして 1 回 30mg を 1 日 2～3 回直腸内に投与する。なお、年令、体重、症状により適宜増減する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：71.⁷⁰円/個